

## 小学校高学年の部

特選　自由図書部門

「想像力をふくらませる大切さ」



大野町立南小学校五年

青木 桜和

「わあこの絵とつてもかわいい。」

私は、油絵でえがかれたこの絵本にきょう味をもち手にとつた。「ブルー」見た目はかわいらしい絵本だけど、内容を読み終わつた後はとてもさみしく悲しい気持ちになつてしまつた。それはなぜか。この本にこめられたメッセージがとても強く感じ悲しい物語に引きこまれてしまつたからだ。

物語の主人公は、カルタスと王様だ。初めにカルタス側から読み、次に王様側からそれぞれ気持ちが分かる本のしかけになつてゐる。平和な国にあらしがおそい、王様は必死で国民を助けようとするけれどおいつかず、何も知らないカルタスや国民から大きな非なんを浴びることになつた。村人の批判が大きくなり、ついには王様はしょけいされてしまうという話だ。カルタスはカルタスの気持ちがあるし、王様は王様の思いがあるのだが、コミュニケーションをとることなくおたがいにすれちがい、そしてごかいを生み、どちらも、幸福になれない結果になつた。なぜ、このような悲さんなことになつてしまつたのだろうと考えた。もし、相手の立ち場に立つて耳をかたむけられたら、けんかや争い事は起こらない。一度争いが始まつてしまえば、かん單には火は消せない。それぞれの意見はあるけれど、それを暴力で解決することは自分勝手で弱い心がするのだと感じた。物事の真実は一つだけおたがいの理由がある。どちらの気持ちも分かるだけ苦しい気持ちになつた。

五年生のクラスでは学級会での意見がわかれることがある。その時は先ず、「○○さんの意見を聞きましょ。」次に、「○○さんの意見はどうですか。」という具合に、必ずおたがいの気持ちを聞いてから、物事に折り合いをつけて解決している。さらには、「○○さんはこう言つたけれど、私はこう思う。」という反対意見や、「わたしは、初めはこう思つたけれど、○○さんの意見を聞いてやつぱり同じように思つた。」など、発てんしていくこともあるからおもしろい。このように、一つの出来事から人それぞれ全くちがう見方や考え方がある。相手の立場に立つて物事を多面的にとらえられることが大切だと思う。なぜかというと人の話に耳をかたむけると、知らなかつたことや今まで理解できなかつたことがなつとくできることがあるからだ。平和というのは、おたがいに歩みよることから始まると思う。こうであるべきや、○○でなければならぬないという固定かん念にとらわれず、じゅうなんな心を持つたい。

この本を読んで、自信をもつて自主的に意見を伝えられるようになりたいと思つた。そして、相手の気持ちを想像する思いやりが必要であることを学ぶことができ、とても勉強になつた。これから的生活で役立てて実せんしていきたいと思う。

FUKASE  
『BLUE』  
作

福音館書店

### 【講評】

意見が食い違う時にどうするとよいか、自分事として素直に深く考えています。自分の生活経験を重ねながら、相手の立場に立つて「固定観念にとらわれず柔軟な心をもつこと」に気付くことができました。